

ファン待望「ジブリパーク」オープン 映画の世界観と公園の自然が一体に



◎「トトロ」は高さ5mも

愛知県長久手市の愛・地球博記念公園（モリコロパーク）の一部を再整備した「ジブリパーク」が、いよいよ11月1日にオープンする。アニメ映画『となりのトトロ』『千と千尋の神隠し』などのスタジオジブリ作品の世界観が精巧に再現され、里山の自然とともに映画の中に入り込んだ気分になる仕掛けがいっぱいだ。報道向け内覧会で撮影した写真とともに、その内部をお伝えする。

アニメの場面を再現 「映え」スポットに

ジブリパークは愛知県とスタジオジブリが、2005年に開かれた愛知万博（愛・地球博）の理念を継承する形で構想。19年には中日新聞社が参画して、施設を運営管理する「株式会社ジブリパーク」を設立。20年7月に起工式を行い、本格的な整備が始まった。

愛・地球博記念公園は全体で194ヘクタールあり、うちジブリパークとして今回オープンするのは第1期の3エリア約3.4ヘクタール。第2期の2エリア約3.7ヘクタールは、2023年度中にオープンする予定だ。

メインエリアとなる「ジブリの大倉庫」は、万博時に「冷凍マンモス」が展示されていたパビリオンの一部で、その後プールとなっていた屋内施設を活用。ヨーロッパの街を思わ

せるようなタイル張りの階段や広場（写真①）を中心に、さまざまな展示や体験施設が配されている。

その目玉となるのが、ジブリアニメの一場面を立体的に再現し、主人公らと同じポーズで写真が撮れる展示コーナーだ。『千と千尋』の「カオナシ」が座る電車の車



内（写真②）から始まり、『紅の豚』（写真③）や『ゲド戦記』など13作品の名場面を表した14コーナー。『天空の城ラピュタ』のコーナーでは、空からふわりと落ちてくる少女「シータ」の像（写真④）が吊るされ、それを受け止める主人公「パズー」になりきることができる。『崖の上のポニョ』のコーナーは、嵐の中で大量の魚の上を走るポニョの姿（写真⑤）が忠実に再現されている。いずれも記念撮影が可能のため、SNSなどで「映

える」スポットとして話題になるのは間違いない。

そのほか「ネコバスルーム」などの子ども（小学生以下）向けの遊び場（写真⑥）や、東京の「三鷹の森ジブリ美術館」だけで観ら

